

<<<<<<<調査会ニュース Vol.49>>>>>>>(2003.11.7)

失踪者ポスター（第3版）作成

これまで公開された180名の方についてのデータと写真を掲載したポスター第3版（第2版と同じA2の大きさ）ができました。ご入り用の方は恐縮ですが、1枚100円×枚数分の切手を同封して調査会宛ご送付いただくと幸いです。50枚以上ご入り用の場合はお手数ですが現金書留ないし郵便振替（00160-9-583587 特定失踪者問題調査会）にてお送りください。送料は枚数にかかわらずこちらで負担します。自治体、労働組合など各種の組織でも個人でも、一枚でも多く展開していただきたくお願いします。

北朝鮮工作活動のルーツ（？）映画「陸軍中野学校」

この六月に発刊されて話題を呼んだ本に『金正日の料理人』（藤本健二著・扶桑社）があります。著者は拉致ではなく、請われて北朝鮮に渡り、金正日の料理人となった人物。その中で、著者が金正日の前でピストルの射撃をする場面が出てきます。うまく的に当てると金正日は「この中野ヤー！」と言ったそうです。「中野」は陸軍中野学校の意味で、しかもおそらくそれは1960年代中盤、一世を風靡した市川雷蔵主演の大映映画「陸軍中野学校」シリーズからイメージしたもののようです。

金正日が北朝鮮の工作機関を完全に掌握するのは1975年10月。しかし金正日にはそれまで軍の経験もなければ工作活動の経験もありませんでした。父親金日成はソ連で工作活動などを行う部隊にいたから真似事程度はできたかも知れませんが、金正日の経歴にはそれにあたるものが存在しないのです。そうすると考えられるのは本人の最も得意とする映画ということになります。実際工作員などでこの映画を北朝鮮で見せられた人もいたようです。

この映画は5作全部がビデオになっていますので興味のある方はさがしてみてください。第2作「陸軍中野学校・雲1号指令」では村松英子さん扮する某国工作員が姿を消した日本人に成り代わる、いわゆる「背乗り」まで出てきます。ただし、中野学校で学生が叩き込まれた情報戦の真髄は「誠」であるという部分は北朝鮮ではきれいさっぱり無くなっているわけで、都合のいいところだけつまみ食いしたということでしょう。まあ、映画を手本にしてやってきた工作活動に振り回されてきたと考えると情けなくなりますが。（荒木和博）

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.50>>>>>>>(2003.11.13)

秋田美輪さんのご両親、兵庫県警に告発

昭和 60 年 12 月 4 日に失踪し、本調査会が拉致の疑いが濃いとして（1000 番台リスト）発表した兵庫県の秋田美輪さんについて、本日ご両親が法律家の会藤原精吾弁護士を代理人として兵庫県警に告発を行ないました。告発状は以下の通りです。

告発状

2003 年 11 月 13 日

兵庫県警察本部

本部長 巽 高英 殿

徳島市北常三島町 1 - 1 1

告発人 秋田正一郎

同所

告発人 秋田嶺子

650-0025 神戸市中央区相生町 1 - 2 - 1 東成ビル 4 階

あいおい法律事務所

告発代理人 弁護士 藤原精吾

住所及び居所 不明

被告発人 某

告発の趣旨

被告発人を刑法第 226 条（国外移送目的略取誘拐）の罪で直ちに捜査の上、厳重処罰することを求める。

1、告訴にかかる犯罪事実

被告発人は国内外の協力者と共謀の上、1985 年（昭和 60 年）12 月 4 日頃、兵庫県内において、当時神戸松蔭女子大学文学部国文学科 4 年生であった被告発人らの二女秋田美輪（昭和 39 年 1 月 25 日生まれ）を国外移送目的をもって略取誘拐し、密かに日本から北朝鮮国内に移送し、現在に至っているものである。

2、関連する事実

(1) 秋田美輪の失踪時の状況

秋田美輪（昭和 39 年 1 月 25 日生まれ。以下美輪という。）は被告発人らの二女であり、当時兵庫県川西市湯山台 1 - 2 3 - 6 に住んでいた。同人は当時神戸市灘区にある神戸松蔭女子大学文学部国文学科 4 年生として在籍し、自宅から通学していた。

1985 年（昭和 60 年）12 月 4 日、自宅から大学に出かけ、午前中英語の授業を受け、1 時過ぎに友人と大学食堂で食事をとった後、校門近くで親しい友人である K（告発状は本名記載、以下同）に、「ケーキを食べに行かない？」と誘ったが、同人にはたまたま別の予定があったので、大学正門で同人と別れた。

その夜午後 8 時過ぎ、自宅の母に「K さん宅に泊まる」との電話があった。

翌 12 月 5 日朝、兵庫県城崎郡竹野町竹野の弁天浜海岸で、美輪のバッグと靴が発見されたとの電話が城崎警察署から自宅に入った。電話は午前 8 時 15 分頃であった。

警察では入水自殺した可能性が強いと見てヘリコプター、漁船、ダイバーを投入して捜索したが、遺体は発見されなかった。

警察の捜索は 2 日間行なわれたが、結局「自殺」として打ち切られた。

(2) 自殺とは考え難い理由

a) 失踪当時の美輪には、自殺を動機付ける事情が一切存在しないばかりか、家族および親しい友人からみて、自殺の兆候と解しうる言動は全く窺われなかった。

逆に、美輪は大学のロッカーに 1, 2 日後提出する予定のレポートをのこしており、12 月 4 日午前には大学の授業を受け、昼食後親友にはケーキを食べに行かないかと誘っている。

また、大学当局によると、失踪まで美輪の出席状況は良く、また成績も優秀であった。

b) バッグ等の遺留品の発見された弁天浜は、入江になっており、もし入水自殺したのであれば、遺体は間違いなく発見される。潮流の関係で遺体は浜に上るか、湾外に流れ出したとしても 1 週間程度後には丹後半島に流れ着くはずである。

c) 12 月初旬は日本海岸の波浪は高く、前日夜は神戸で雨が降ったというのに、バッグと靴は濡れた様子がなかった。

d) 12 月 4 日夜から 5 日の早朝にかけて付近住民に美輪を目撃した者はいなかった。山陰線竹野駅から弁天浜までは 3 キロメートル以上の距離があり、海水浴客のいない冬場に、美輪が夜の竹野町を一人で歩いて行ったならば目撃者が居て当然である。

e) 残されていたバッグ内には手帳、定期券などと共に・12 月 4 日大阪駅発行の 150

キロメートルまでの急行券、・現金 1 万 8 千円が残されていた。

・この急行券で行けるのは、和田山までの距離であり、竹野までの 200 キロ券との差額は 100 円しかない。かつ検札を受けた痕跡が皆無であった。

・十分な額の現金を所持していたのであるから、竹野で夜を明かすのに民宿に泊まることは可能であったがその事実はない。

・4 日の夜 8 時頃、自宅の母親に友人の K さんの所に泊めてもらうとの電話があったが、友人はこれを否定しており、美輪がうそをついたことになるが、電話の背後には騒音もなく、シーンとしていた。

以上 a) ないし e) の事実は、美輪が自らの意思で竹野に行ったのではないことを強く示唆する。また、所持品のみが弁天浜にあったものとする、なおのこと第 3 者の存在が推定される。

(3) 拉致の可能性が高いと考える理由

a) 地域的・時期的特徴

北朝鮮政府関係者ないし関係機関による日本人拉致事件は、特定失踪者問題調査会で公式に確認されただけでも 10 件を超え、拉致の可能性のある失踪者の数は 300 件を

超す。その中でも拉致の疑いが濃厚とされる者が12名あり、美輪はこれに含まれる。その理由は、・失踪の状況が他の拉致事案と類似していること、・偽装工作のあった場所が過去に1度ならず北朝鮮の工作員の不法入国事件が発生した地域であること、
・時期的に見て拉致事件が頻発していた年代にあたること、・拉致疑惑のある多数のケースに照らし、美輪の年齢・性別が拉致対象者となる蓋然性を有すること。
・自殺の動機がなく、また自ら失踪する動機もないこと。

3、告発に至った理由

美輪の両親である告発人らは当初より美輪の失踪が自殺によるものとは考えられなかった。しかし警察は早くも12月5日には「入水自殺」と判断して新聞に発表している。遺体も上らないのに死亡したとは信じられず、告発人らは毎年捜索願いを更新してきた。

昨年来、北朝鮮による拉致事件が社会の注目を浴び、告発人は関係者の協力を得て失踪時の状況を改めて調査したところ、上記の理由に加えてさらに次のような事実が判明した。

- ・ 1959年9月29日兵庫県浜坂町で、密入国し活動していた金俊英（日本名川上崇弘）が浜坂海岸で帰国のため工作船を待っていたところを逮捕した。（浜坂事件）
- ・ 1962年10月16日兵庫県香住町余部海岸から朴基華が潜入
- ・ 1970年4月14日、兵庫县城崎郡竹野町猫崎（弁天浜隣接地）の東1.8キロ付近で無灯火で航行している不審船を巡視船が発見し、停戦を命じたところ、時速20ノットで北方に逃走した。巡視船は300メートルまで接近し、写真撮影したところ、不審船から自動小銃で連射された。（不審船発砲事件）
- ・ 1974年9月19日 竹野町切浜海岸（弁天浜の隣接地）で北朝鮮工作員、威国上及び李庸煥の両名を逮捕した。（切浜事件）
- ・ 1980年6月12日 同町香住海岸で工作船を待機中の李基吾と黄博を逮捕（磯の松島事件）

失踪当時、所轄の城崎警察署では、バッグ内にあった前記急行券に不審を抱くこともなく、また所持していた診察券についても何の捜査も行なっていなかったことが判明している。

すなわち、当時の警察は、美輪の失踪を単なる自殺案件と即断し、拉致事件としての疑いをもって捜査することがなかった。ところが、現地付近において、過去5度にわたる北朝鮮工作員関連の事件が発生しているのであり、これらと失踪との関連性を解明すべきであったのである。

4、結語

21歳の美輪が忽然と消えた時以来、両親である告発人らは片時も美輪のことを忘れたことはない。美輪は北朝鮮に拉致されたと考えるべき十分な根拠がある。拉致誘拐は重大犯罪であり、かつ犯人が国外に逃れているなら時効は進行しない。何よりも、拉致

による人権侵害の状態は現在もなお継続しているのである。従って日本国政府と警察は、事件を解明し、早急に被害の回復を図るべき責務を有する。

以上のような次第で、告発人らは北朝鮮政府関係者に拉致されたと信ずべき多数の根拠を有するところ、警察当局において、あらためてその有する情報と捜査能力を駆使して美輪を拉致誘拐した犯人の捜査を行なうことを求めるために告発に及んだものである。

証拠方法

- 1、失踪時の所持品 写真
- 2、昭和 60 年 12 月 6 日付サンケイ新聞記事
添付書類
 - 1) 証拠書類
 - 2) 委任状

失踪者ポスターの展開にご協力を

前のニュースでもお知らせしましたが 失踪者ポスター（第 3 版、前と同じ A 2 の大きさ）ができました。ご入り用の方は恐縮ですが、1 枚 100 円×枚数分の切手を同封して調査会宛ご送付いただけると幸いです。50 枚以上ご入り用の場合はお手数ですが現金書留ないし郵便振替（00160-9-583587 特定失踪者問題調査会）にてお送りください。送料は枚数にかかわらずこちらで負担します。自治体、労働組合など各種の組織でも個人でも、一枚でも多く展開していただきたくお願いします。

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.51>>>>>>>>(2003.11.19)

発表及び政府要請等について

調査会では今週から来週にかけて次のような予定をしております。報道関係等各位の対応をよろしくお願い申し上げます。

1、1000番台3次及びゼロ番台6次リストの発表について

日時・場所 11月21日(金)15:00～16:00 (港区芝・友愛会館1階A会議室)

内容

(1)1000番台(北朝鮮による拉致の可能性が高いと思われる失踪者)リストの発表(4名)

このリストは今回で16人になりますが、調査会の作業能力の限界もあり、全体を同様に調査して可能性の高い順に出しているわけではありません。この16人と同等ないし、さらに可能性が濃いのではないかとと思われる方々もあり、それらについては今後順次発表していきます。

(2)ゼロ番台(従来と同じ「拉致の可能性が完全には排除できない」失踪者)リストの発表(4名)。これで現在の公表者は184名(186名発表し、内2人が日本国内で発見)になります。

(3)11月27日の要請等についての説明

2、1000番台リスト失踪者ご家族の政府・拉致議連に対する要請等

21日の会見で発表する1000番台リストのご家族とすでに1000番台リストとして発表している失踪者のご家族が政府・拉致議連に対して要請を行ないます。

日程と場所 11月27日(木) 日程は一部変更の可能性がります。

午前中 調査会からのご家族に対する状況報告・打ち合わせ

午後1時 内閣府支援室に要請

午後2時 拉致議連役員に要請(参議院会館第3・第4会議室)

午後3時 記者懇談(場所は同じ参議院会館第3・第4会議室。参議院会館では「会見」はできないため「懇談」としてあります。やり方は通常と同じです)

終了後解散

今回は21日発表分も含め失踪者16人の半数以上の方のご家族が参加の予定です。このような形で調査会がコーディネートし、ご家族がまとまって要請を行なうのは今回が初めてです。なお、前述のようにゼロ番台リストの失踪者の中でもまだ現在1000番台リストに入っている人よりさらに可能性が高いと思われるケースもあります。したがって、今回の要請は個別の失踪者についての要請ではなく、この問題全体を政府・国会が真剣に取り組むよう要請するものです。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.52>>>>>>>(2003.11.19-2)

報道関係各位 11月21日の日程変更について

先程ニュースで流した21日金曜の日程について、発表後に同日2時から拉致議連の総会があることが分かりました。調査会役員もこれに参加する必要があるため、以下のように変更させていただきます。お手数をおかけしますが何卒よろしくお願い申し上げます。

記者会見 15時30分頃から 衆議院第一議員会館第一会議室

(拉致議連総会終了後プリーフィングがありますので、それが終わり次第行ないます。若干時間が前後する可能性がありますのでご注意ください)

国会内の通行証のない報道関係者については第1議員会館入り口で通行証をお渡しします。

内容等については前に流した通りです。なお、ゼロ番台第6次リスト及び1000番台第3次リストは21日当日朝メールニュースで流します。これには連絡先は入りませんので、取材等で連絡先がご入り用の場合は当日調査会にご連絡の上FAXでお受け取り下さい。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.53>>>>>>>(2003.11.20)

報道関係各位 リストの発表について

明日 21 日のゼロ番台 6 次リスト及び 1000 番台 3 次リスト発表ですが、次のように行ないますのでよろしくお願い申し上げます。

午前 10 時～ 調査会事務所にてデータ公開（資料配付及び写真掲示）

午後 3 時半～ 記者会見（衆議院第一議員会館第一会議室）

拉致議連総会後のブリーフィングが終わった後になりますので時間は若干前後する可能性があります。

このときも資料配付、写真掲示を行ないます。

この記者会見開始をもってデータの解禁とします。

通行証のない方には議員会館入り口で担当者が通行証をお渡しします。

<<<<<<<<<<調査会ニュース Vol.54>>>>>>>>(2003.11.21)

先程の衆議院第1議員会館での記者会見でパソコンをお忘れになった方がおられました。会館の事務局に預けてありますのでお心当たりの方はご確認下さい。

ゼロ番台6次リスト及び1000番台3次リスト

本日調査会ではゼロ番台リスト(これまで「拉致の疑いが完全には排除できない失踪者」として発表してきたもの5人と1000番台リスト(ゼロ番台リストのうち調査会が「拉致の疑いが濃い」と発表したもの)4人を発表しました。これでゼロ番台リストは185人(これまで182人発表し2人が日本国内で発見)、1000番台リストは16人になりました。

<ゼロ番台6次リスト>

省略

<1000番台3次リストの発表文書>

北朝鮮による拉致事件の疑いが濃いと思われる失踪者
(1000番台リスト第3次発表・平成15年11月21日)

特定失踪者問題調査会

調査会には現在380人余の失踪者リストがありますが、このうち拉致の疑いの濃い失踪者を「1000番台リスト」して12人を発表してきました。既に発表したのは以下の方々です。

加藤久美子さん、古川了子さん、高敬美さん、高剛さん、金田竜光さん、松本京子さん、大屋敷正行さん、大澤孝司さん、国広富子さん、新木章さん、山本美保さん、秋田美輪さん

今回これに加えて次の4人の方々(すべて公開済み)を1000番台リストに加えしました。

水島慎一さん、斉藤裕さん、今井裕さん、佐々木悦子さん

この基準は「自らの意志による失踪、自殺など、拉致以外の可能性が考えられない失踪事件」ということですが、それに加えて各種の要素を考慮した上で判断しました。例えば水島さん、斉藤さん、今井さんについては大屋敷さんも含めた同種失踪事件が集中(昭和43、44年の男子高校生)していることなどです。

前回の発表の折りもお伝えした通り、調査会の能力からして現状で全てのケースを均等に調べ、順位をつけて可能性の高いものから発表することはできません。したがって「ゼロ番台リスト」の中には「1000番台リスト」と同程度ないしより拉致可能性が高いのではないかと思われるケースも存在します。これらは今後の調査にともない順次1000番台

リストとして発表していく予定です。

今回発表した 1000 番台リスト 4 人に関するメモ（敬称略）

水島 慎一（みずしま しんいち）

生年月日：1949.4.24

失踪時期：1968.2.9

失踪場所：富山県下新川郡朝日町宮崎海岸

当時の住所：富山県下新川郡朝日町

当時の身分：泊高校普通科 3 年生

状況：失踪した日卒業前の期末試験の最終日。昼頃帰宅し、自宅裏の海岸にバットの素振りをしてくると言ってお出かけたまま行方不明。就職は決まっていた。夕方海岸にバットが転がっていたのが発見される。当日はべた凧。水島さんは遠泳の名手で溺れた可能性はない。

本人の特徴：身長 165 センチ、体重 75 キロ、がっちりした体格、野球部キャプテンで腕力には自信があった、右利き

斉藤 裕（さいとう ひろし）

生年月日：1950.9.17

失踪時期：1968.12.1

失踪場所：北海道稚内市

当時の住所：北海道稚内市

当時の身分：稚内商業高校機械科 3 年生

状況：当日夜 7 時頃、4 キロくらい離れた友人の女性宅を訪ねたが不在だったので、また来ると告げて出て、浜の方へ下りていったまま消息不明。当日、+ 8 度、晴天、積雪 0。当時の服装は、タートルネック、下は学生ズボン、サンダル履き。大阪の会社に就職が決まっていた。

本人の特徴：身長 160 センチ、やせ型（小柄）腕に火傷痕（左右は不明）、盲腸の手術跡

今井 裕（いまい ゆたか）

生年月日：1950.12.20

失踪時期：1969.3.2

失踪場所：青森県弘前市

当時の住所：青森県弘前市

当時の身分：弘前工業高校 3 年生

状況：3 月 4 日の卒業式で答辞を読むことになっていた。夕方タートルネックに着替え制服のボタンを買いに行きそのまま行方不明に。東京の会社に就職が決まっていた。

本人の特徴：身長 170 センチ位、体重 62 ~ 3 キロ。右の頬に子供の時木に登ってついた傷が残る。眼鏡着用

佐々木 悦子（ささき えつこ）

生年月日：1963.12.6

失踪時期：1991.4.22

失踪場所：埼玉県浦和市（当時）の自宅を出たまま行方不明。

当時の住所：埼玉県浦和市

当時の身分：銀行員（パート）

状況：出勤すると言って家を出たが、当日は休みをとっていた。そのまま失踪し、以後情報なし。佐々木さんについては亡命者の目撃情報がある。この情報自体はまだ確認できていないが調査会としては関心を持っている。

本人の特徴：身長 162 センチ、体重 52 キロ、頭髪は背中くらいまで長め、左目の下に泣きぼくろあり、両手共ふっくらとしているが指先が細い。

< 斉藤裕さん及び佐々木悦子さんについての目撃証言 >

亡命者権革氏は斉藤さんと佐々木さんの両方を、金国石氏は斉藤さんを目撃したと証言しています。二人の目撃情報は未確認であり、あくまで参考情報として考慮していますが、概要は次の通りです。

権革氏の証言

（斉藤裕さんについて）

この人と初めて出会ったのは 1978 年 5 月。私（権氏）は 57 軍校の 9 大隊に所属する中尉だった。当時 57 軍校は黄海北道谷山郡にあり、そこで彼（斉藤さん）が日本の風習を教えていた。階級は大尉で、所属は 57 軍校チョンボン邑にある指導部だと思う。79 年には泰川の軍官学校で日本語の教官もしていた。身長は 170cm ほどだった。

（佐々木悦子さんについて）

悦子さんを見かけたのは 1994 年 6 月。平壤市の東大院区三馬洞にある 5454 部隊の本庁舎の通信局の一室で、日本からの電波の解析をしていた。6 m ほど離れたところから見た。その後、運動場でも見かけた。当時の語学参謀長が、美人で頭の良い女性がいるから会ってみないかと紹介してくれたので顔を覚えている。

金国石氏の証言（斉藤裕さんについて）

1990 年 7 月～ 1992 年 8 月の間に在学していたマドンヒ偵察大学で 10 回以上見ている。当時生徒は皆日本人だと知っていた。教官の中ではただ 1 人北朝鮮軍の軍服を着ていた。友人から聞いたところでは運動神経が良かったという。

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.55>>>>>>>>(2003.11.25)

報道関係各位 27日取材の対応について

27日の特定失踪者家族の政府・拉致議連への要請に関する取材は次のようにさせていただきます。各位には何卒よろしくお願い申し上げます。

午前10時から12時 調査会からご家族への説明、意見交換（港区芝、友愛会館会議室）

（取材は頭撮りのみ、終了後直ぐに移動しますのでぶら下がりも対応できません）

終了後タクシーで内閣府に移動

13時から13時40分頃 内閣府拉致被害者・家族支援室に要請

（取材は内閣府建物の出入りのみで、支援室には入れません。終了後直ぐに参議院議員会館に徒歩で移動しますのでぶら下がりも対応できません）

14時から15時迄 参議院議員会館会議室で議連役員へ要請

（取材は頭撮りのみ）

15時から16時迄 同室で記者懇談（会見）

終了後解散

このような政府要請は初めてのため、報道関係の対応がどの程度になるのか想像できませんのでカメラの台数の制限等は特に設けません。各位には節度ある取材をよろしくお願い申し上げます。

地方議会での請願陳情にご協力をお願いします

以下の文章は特定失踪者問題に関する地方議会への請願陳情文書のモデルです。このニュースをごらんの方で各地の議会に請願陳情を出すことの出来る方はぜひご協力下さい。また、提出・採択された場合は調査会までご連絡いただけると幸いです。

「政府未認定とされている北朝鮮による拉致事件の真相究明と早期の原状回復を求める意見書提出」についての陳情（請願）

1、陳情の要旨

市議会として政府関係機関に対して「政府未認定とされている北朝鮮による拉致事件の真相究明と被害者の早期原状回復を求める意見書提出」の意見書の送付を宜しくお願い致します。

2、陳情の理由

衝撃的な日朝首脳会談から一年が経過しましたが昨年首脳会談の中で北朝鮮側は以前から日本側が求めていた拉致被害者の安否確認に応じました。

その安否確認の中で驚くべき事実が明らかになりました。それは日本政府が安否確認を求めていた以外の菅我ひとみさんが含まれていたことです。

その後救う会や現在拉致の疑いのある失踪者の調査を行っている特定失踪調査会には11月末日現在ご家族からの問合せ約330名を含め380人もの調査対象失踪者のリストがあります。現在は警察等の関係機関も捜査に動き始め、さらに韓国に亡命した北朝鮮政府関係者などの脱北者などの目撃証言も寄せられています。

国民の安全と人権を守る観点からも 市議会におきまして、政府未認定とされている
拉致事件の真相究明と被害者の早期原状回復を求める要旨の意見書を政府に提出して下さ
いますよう陳情するものです。

市議会議長 山 男様

平成15年×月×日
川 子

<<<<<<<調査会ニュース Vol.56>>>>>>>>(2003.11.26)

55号後半の請願陳情文書モデルは救う会神奈川の川添友幸事務局長から神奈川県逗子市議会に提出されたものを一部直したものです。

<報道関係各位>

27日午後の内閣府への要請の折りの取材ですが、支援室から取材の方は内閣府敷地内には入れない旨連絡がありました。今回それぞれのご家族の上京にあわせてローカルのマスコミが相当数来る可能性があるため、こちらも初めてのことゆえ慎重に対応せざるを得ません。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

<<<<<<<調査会ニュース Vol.57>>>>>>>(2003.11.26-2)

< 報道関係各位 >

27 日午後の内閣府への要請について、もう一度変更になり、内閣府建物 1 階での出入りの撮影は可能とのことです。ただし前後の日程がありますのでぶら下がりはできません。ご了承下さい。

今回対象となる 1000 番台リストの失踪者は 15 家族 16 名で、要請に参加するのは現時点で 13 家族 20 名の予定。記者会見にも大部分のご家族は参加されます。内閣府支援室では中山参与、小熊室長らに対応される予定です。

<<<<<<<<調査会ニュース Vol.58>>>>>>>(2003.11.27)

政府・議連に要請

本日 27 日、調査会がこれまで拉致の疑いが濃いとして発表したいいわゆる「1000 番台リスト」16 人の家族（15 家族）のうち 13 家族（1 家族は代理）が東京に集まり内閣府と国会を訪れ特定失踪者問題についての要請を行ないました。

要請内容は下記の通りで、調査会及び家族支援委員会からの要請書を内閣府では中山恭子内閣官房参与へ、国会では中井洽拉致議連会長代行に手渡しました。

また、調査会では 26 日に理事会を開催、すでに今月秋田美輪さん拉致に関し兵庫県警に被疑者不詳、海外移送目的誘拐容疑で告発したのと同様、来年のできるだけ早い時期に 1000 番台リストの失踪者について全国一斉の告発を行なうことを決定。27 日午前に関われたご家族への説明会でご家族からも了承を受けました。これは東京で東京地検、各地で所轄警察に告発を行い、あわせて日弁連に人権救済の申し立てを行なうものです。1000 番台リストは今後も増えていきますので、何人が告発を行なうことになるかは不明です。

なお、要請書に「本調査会が『拉致の疑いが濃い』と認定した事案など、拉致の可能性のある失踪事件について」とあるように、私たちは現在の 1000 番台リストはまだ氷山の一角であると認識しており、現在ゼロ番台リストにある失踪事件でもやがて 1000 番台リストにいれることになると考えられる事件は相当数あります。調査会の能力の限界はありますが、今後さらに活動を進めていく所存です。

< 政府宛要請書 >

特定失踪者に関する要請書

平成 15 年 11 月 27 日

内閣官房長官殿
警察庁長官殿
公安調査庁長官殿
海上保安庁長官殿
防衛庁長官殿

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博
特定失踪者問題調査会家族支援委員会
委員長 真鍋貞樹

要請趣旨

特定失踪者問題調査会(以下、調査会)では、現在、16 名の方を「拉致の疑いが濃い」として発表した(詳細は別紙参照)。今後の調査の結果次第では、さらに「拉致の疑いが濃い」方が増えていくことが予見されている。

調査会の認定は、捜査当局の認定の手法とは異なり、あくまでも状況証拠を積み重ねたものから総合的に判断するとともに、目撃情報などを加えて判断するに至ったものである。つまり、「拉致以外の可能性が全くない」ケースと判断したものである。このように、調査会の認定の手法は、警察当局などの物証を積み重ねていく手法とは異なるのである。しかしながら、「拉致」という極めて巧妙かつ時間的経過が経った犯罪行為を認定していく手法としては、本人が脱出するか亡命者からの正確な情報がもたらされない限り、この手段しか存在しないのである。

よって、政府におかれては、こうした「拉致の疑いが濃い」と認定した方々など、調査会に届けられたリストをはじめとした拉致の可能性のある失踪者について、再捜査もしくは再調査をされ、失踪の全容解明に努めるよう、強く要請するものである。

要請事項

1. 政府関係当局において、本調査会が「拉致の疑いが濃い」と認定した事案など、拉致の可能性のある失踪事件について、速やかに再捜査・再調査をされたい。
2. 再捜査・再調査の結果を、ご家族はもとより、可能な限り国民に公開されたい。
3. 再捜査・再調査の結果、「拉致」と政府が認定するに至った場合には、速やかに日朝交渉の俎上にのぼらせること。
4. 調査と並行し、朝鮮半島における緊急時に備え、邦人保護の立場からの救出のための準備を進めること。

以上

< 拉致議連宛要請書 >

特定失踪者に関する要請書

平成 15 年 11 月 27 日

北朝鮮に拉致された日本人を
早期に救出するために行動する議員連盟
会長 平沼赳夫殿

特定失踪者問題調査会
代表 荒木和博
特定失踪者問題調査会家族支援委員会
委員長 真鍋貞樹

要請趣旨

特定失踪者問題調査会(以下、調査会)では、現在、16 名の方を「拉致の疑いが濃い」として発表した(詳細は別紙参照)。今後の調査の結果次第では、さらに「拉致の疑いが濃い」方が増えていくことが予見されています。

調査会の認定は、捜査当局の認定の手法とは異なり、あくまでも状況証拠を積み重ねたものから総合的に判断するとともに、目撃情報などを加えて判断するに至ったものです。

つまり、「拉致以外の可能性が全くない」ケースと判断したものです。このように、調査会の認定の手法は、警察当局などの物証を積み重ねていく手法とは異なるのです。しかしながら、「拉致」という極めて巧妙かつ時間的経過が経った犯罪行為を認定していく手法としては、本人が脱出するか亡命者からの正確な情報がもたらされない限り、この手段しか存在しないのです。

よって、「拉致議連」におかれましては、政府に対して、こうした「拉致の疑いが濃い」と認定した方々など、調査会に届けられたリストをはじめとした拉致の可能性のある失踪者について、再捜査もしくは再調査をされ、失踪の全容解明に努めるよう、強く働きかけるよう要請致します。

要請事項

1. 政府関係当局において、本調査会が「拉致の疑いが濃い」と認定した事案など、拉致の可能性のある失踪事件について、速やかに再捜査・再調査をされるよう働きかけてください。
2. 再捜査・再調査の結果を、ご家族はもとより、可能な限り国民に公開されるよう働きかけてください。
3. 再捜査・再調査の結果、「拉致」と政府が認定するに至った場合には、速やかに日朝交渉の俎上にのぼらせるよう働きかけてください。
4. 調査と並行し、朝鮮半島における緊急時に備え、邦人保護の立場からの救出のための準備を進めるよう働きかけてください。

以上